

韓国の被爆者の現状と思い

～ヒロシマを持ちかえった人々の声～

近くて遠い隣国『韓国』。戦前は日本の植民地支配を受けていました。広島・長崎の原爆被爆者の1割以上が朝鮮人であったという事実。戦前・戦後・現在に至る在韓被爆者の厳しい現実をお話していただきます。被爆者と被曝者、どちらも核の被害者と言われる市場さん。福島原発の放射能漏れに対するご意見もお伺いします。ぜひご参加下さい。



日時：2011年6月19日（日）午後2時～4時

場所：とよなか国際交流センター 6F 会議室2B

豊中市玉井町1-1-1-501 エトレ豊中6階

講師：市場 淳子さん

（韓国の原爆被害者を救援する市民の会会長）

＜講師プロフィール＞ 市場 淳子（いちば じゅんこ）
1956年、広島県生まれ。1979年1月に初めて韓国を訪れ、在韓被爆者の実態に接して以来、「韓国の原爆被害者を救援する市民の会」の活動にたずさわり、現在会長。
大学朝鮮語講師。著書『ヒロシマを持ちかえった人々―『韓国の広島』はなぜ生まれたのか』。豊中市在住。



参加費：300円（資料代）

主催：NPO法人 国際交流の会とよなか（TIFA）

Tel/Fax: 06-6840-1014

E-mail: tifa99@nifty.ne.jp

ホームページ：http://homepage1.nifty.com/tifa

